

8. 環境教育

1. 井土メダカ保全事業（宮城教育大学連携事業）

東日本大震災により津波等の被害を受け、絶滅の危機に瀕した仙台市沿岸部の野生メダカの生息数を回復させ、以前の生息地での復活を目指す事業。震災の前年に、若林区井土地区にて調査・保全目的で野生メダカを採集していた宮城教育大学と協力して実施している。平成24年に事業開始して以降、有志市民に里親となってもらい、当該地域のメダカを飼育・増殖させてきた。令和元年度の里親募集終了までに里親となった市民は227組（うち学校6校、その他施設等4）。令和3年度には、メダカ採集地である六郷東部地区住民らの要望を反映する形で“東六郷コミュニティ広場”内に作られた「メダカ池」への放流が行なわれた。令和4年度には里親イベントとして、宮城野区沿岸の“カントリーパーク新浜”にて、「井土メダカのためのビオトープ作り」を実施し、令和5年3月をもって里親制度を終了した。

令和5年度は、これまでの取り組みに関する学習プログラム「震災と井土メダカ」を2校に実施した。さらに全国都市緑化仙台フェア（5/24～6/18）及び仙台防災未来フォーラム（3/9）にパネルを出展し、身近な生き物の保全に関する市民啓発に取り組んだ。

2. ゾウ糞エコサイクル授業

動物の糞から作った堆肥を使用して学校で野菜を栽培し、収穫した野菜をアフリカゾウに給餌することで、自然界のサイクルを疑似体験するプログラム。園内で出る動物の糞を有効活用しつつ、アフリカゾウが自然界で担う役割や、アフリカゾウの個体数が減ることによる影響などについて学習をする。令和5年度は下記1校に対して授業を実施した。

<令和5年度の実績>

- ・仙台市立七郷小学校 2年生 148名

令和5年10月13日に、七郷小学校の児童が動物園に来園し、授業を受けた。まず、飼育員からアフリカゾウの特徴や生態、自然界のサイクルの他、今回実施したゾウ糞エコサイクルについて説明した。次に、来年度の児童が使用するゾウ糞堆肥の仕込みと、児童がゾウ糞堆肥を施した畑で栽培したカボチャをアフリカゾウにプレゼントした。

- ・ゾウ糞エコサイクル授業の一連の取り組みについて、日本動物園水族館協会北海道関東東北ブロック研究会にて発表を行った。



全国都市緑化フェアにて広瀬川水生生物とパネルの展示



児童が作ったカボチャをアフリカゾウにプレゼント